

要 約

報告番号	甲 ㊦ 第	号	氏 名	宮 崎 雅 樹
主 論 文 題 名				
Analysis of comorbid factors that increase the COPD assessment test scores (慢性閉塞性肺疾患アセスメントテストスコアの上昇に寄与する併存症に関する解析)				
(内容の要旨)				
<p>慢性閉塞性肺疾患 (Chronic Obstructive Pulmonary Disease: COPD) は完全には可逆的ではない閉塞性換気障害を特徴とする疾患であるが、肺だけではなく全身に様々な併存症を合併し、全世界的にも死因の上位に位置する疾患である。</p> <p>COPDアセスメントテスト (COPD assessment test: CAT) は8つの質問項目を0～5の6段階評価で回答し、その合計点数によってCOPD患者の健康状態評価するものであり、従来のCOPD患者の代表的な健康状態の指標とされるセント・ジョージ呼吸系アンケート (St. George's Respiratory Questionnaire: SGRQ) 等の代表的な質問票との良好な相関が報告されている。欧米では先行研究により冠動脈疾患や慢性腎臓病、肥満や睡眠時無呼吸症候群とCATスコアには明らかな相関がないことが報告されているが、本邦においては未だ報告はない。そのため本研究では日本人COPD患者において併存症がCATスコアに与える影響について検証を行うことを目的とした。</p> <p>慶應大学病院および関連医療機関で実施中である観察研究「日本人の慢性閉塞性肺疾患とその併存症に関する調査研究」の登録症例を対象とした。同研究への登録基準は40歳以上で①COPD確定例 (1秒率70%未満)、②30pack year以上の喫煙歴がある、③胸部CTで気腫化が認められる、のいずれか満たすものとし、対象者には肺機能検査や胸部CT、心臓超音波検査、血液検査、骨密度測定等を行いまた診療録から臨床経過の把握を行い、各種アンケートや質問票を用いて患者の健康状態の評価を行った。</p> <p>2010年4月から2012年12月の登録期間に計572名の症例登録があり、そのうち臨床経過や各種検査において十分な情報が得られた403人を解析の対象とした。なお診断基準を満たすCOPD患者が336名であり、COPDの診断基準は満たさないものの重喫煙歴を認める、もしくは胸部CTにおいて気腫性変化を認めるCOPDリスク群に該当する症例が67名であった。</p> <p>これら対象患者の健康状態をCATに加え、SGRQや内科疾患一般に用いる健康評価表であるMOS Short-Form 36-Item Health Survey (:SF-36) を用いて評価を行った。併存症については診療録の記録の調査、対象者への記述式のアンケートをもとにその有無を判断し、更に胃食道逆流や不安及び抑うつの有無については疾患特異的な質問票を用いた。また骨粗鬆症については二重エネルギーX線吸収法を用いて骨密度の測定を行い診断を行った。</p> <p>本研究においてもこれまでの報告と同様にCATとSGRQの良好な相関が見られ、またSF-36とも比較的良好な相関が見られることが新たに分かった。また胃食道逆流や不安及び抑うつの併存はCATスコアの上昇につながる事が明らかになった。一方で高血圧や脂質異常症、糖尿病、消化性潰瘍、冠動脈疾患や脳血管障害等の併存症の有無とCATスコアには明らかな関連が認められなかった。</p> <p>臨床症状の強いCOPD患者においては併存症の合併率が高いが、これらの併存症は認識されずに潜在化していることも多い。そのため特にCATスコアの高い患者において主治医は胃食道逆流や不安及び抑うつをはじめとした併存症の有無について注意を払うべきである。</p>				